

第 37 回 企業活性化研究分科会・議事録

< 第 37 回 2011 年 1 月 22 日 (土) 時間 : 13 : 30 ~ 16 : 30 於 : 専修大学 (神田校舎) >

参加者 : 井端、木村、齋藤、菅原、杉本、千葉、長井、星野、宮川、山本、依田、渡邊

1. テーマ (1) : 粉飾企業の分析①

- ・ 報告者 : 井端和男
- ・ 配布資料 : 7 枚
- ・ 報告内容の要旨

本報告は、株式会社プロデュース (以下、「同社」という。) の粉飾について分析したものである。同社は、平成 4 年 7 月にカスタマイズ事業の設計業務を目的として設立され、平成 17 年 12 月にジャスダックに上場している会社である。その後、平成 20 年 9 月に証券取引等監視委員会の強制調査を受け、民事再生法手続の開始を行った。

本分析では、平成 16 年 6 月期から平成 20 年 6 月期までの主な財務数値の推移および成長企業のリスク測定から分析を試みている。同社の財務数値の推移をみると、高い成長率、自己資本比率の十分な確保など、一見、優良企業の様相を呈している。しかし、報告者が考案したリスク測定 (運転資産増減収支 + 固定資産増減収支の直近 3 年間のリスク対象額合計と純資産の額との比較) による分析手法では、純資産の額に比しリスク累計額の方が高いことなどから、粉飾の可能性を指摘することができると論考した。

2. テーマ (2) : 粉飾企業の分析②

- ・ 報告者 : 中村大輔 (代読 : 山本洋信)
- ・ 配布資料 : 6 枚
- ・ 報告内容の趣旨

本報告は、テーマ (1) において分析を行った株式会社プロデュースについて、テーマ (1) とは異なる視点から分析を行ったものである。本分析では、貸借対照表項目とキャッシュ・フローを中心に分析を行った。貸借対照表項目の分析では、売上債権および棚卸資産、特に仕掛品に着目し、それらが著しく増加した要因の分析を試みている。一方、キャッシュ・フローの分析では、キャッシュ・フロー計算書おける営業キャッシュ・フローを利益要素と運転資本要素の区分に組み替えて分析した。

3. テーマ (3) : 『日本経済』に関する報告

- ・ 報告者 : 星野敏之
- ・ 配布資料 : 5 枚

(文責 : 齋藤幸雄)